

## 2007年度のラブ・ローフ募金による支援活動例

多くの方のご協力により、ケニア・ブルンジ・エルサルバドルなどで、支援活動を行うことができました

■募金期間：2006年10月1日～2007年9月30日

■募金件数：577件

■募金金額：4,703,509円

### 【ケニア緊急食糧援助事業】

子どもたちを中心に30万人に配布しました

2004年に起きた干ばつで、300万人以上の人々が現在も飢餓に直面しています。募金により被害が深刻な地区の人々約30万人に、約1.5万トンの食糧を届けることができました。特に子どもたちなど弱い立場の人々に食料が行き届くように、地域の人々が中心となって、5歳未満の栄養不良児や、女性、障がい者など、もっとも支援を必要とする人々に優先的に食料を配給しました。また、森林面積が減っているために土地が荒れ、食糧を作ることができなくなっているため、地域の人々を対象に環境保全のための啓発活動を実施しました。



食糧配布を受ける女性たち



支援により建設された溜池

道路の修復作業に参加する地域住民

### 【エルサルバドル緊急食糧援助事業】

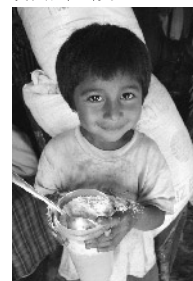
子どもたちの病気が少なくなりました

エルサルバドルでは、2005年の台風や国内最大のリヤマテベック火山の噴火などの自然災害、主要輸出品であるコーヒーの国際市場価格の下落により、多くの人々が十分な食糧を得ることができません。そのため、食料不足が深刻な11地域を対象に「フード・フォー・ワーク」を実施しました。これは人々が作業に参加すること(ワーク)で、その報酬として食料(フード)を受け取るという支援です。

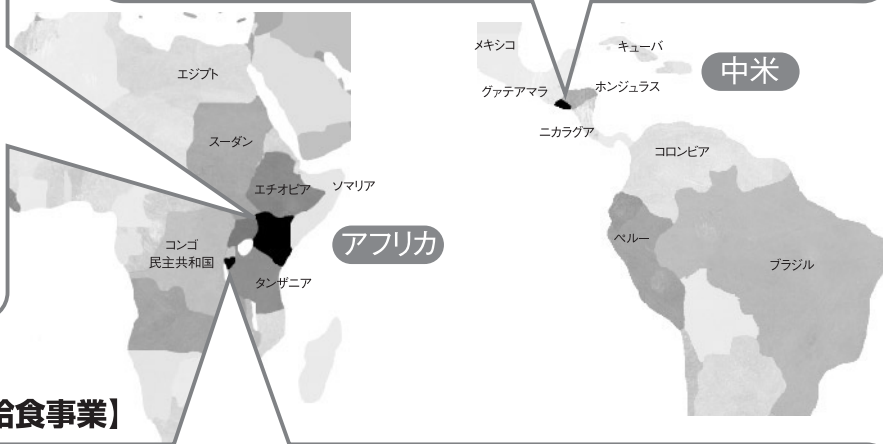
このプログラムにより、4,354世帯がとうもろこし、豆、小麦粉、食用油など合計約1,336トンの食料支援を受けることができました。食料を受け取るかわりに住民は、農業効率化のための土壌保全、水路や貯水池の建設などの作業に参加しました。



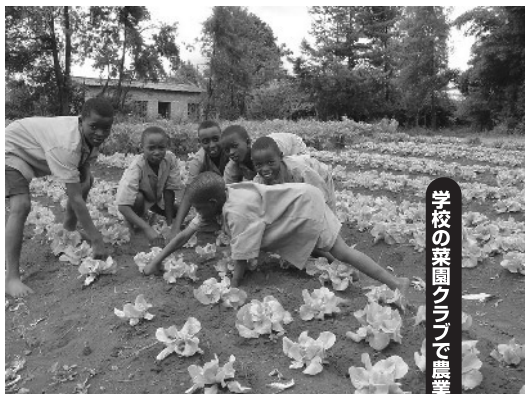
食糧配布の様子



配給されたコーンと大豆の粉を持つフェルナンド君(4歳)は、7人兄弟の5男です。家族には十分な食料を買うお金もなく、砂糖水しか口にできない日もありました。栄養不良で病気がちだったフェルナンド君とその兄弟は、配給された食料のおかげで病気をすることが少なくなりました



### 【ブルンジ学校給食事業】



学校の菜園で農業について学ぶ子どもたち

学校の菜園クッキングで農業を学びました

ブルンジは、世界でとくに貧しい国の1つで、食料不足が深刻な問題となっています。とくに成長期に十分な栄養を取ることができない子どもたちは勉強に集中することができないなど、食料不足は教育にも影響を及ぼしています。今回の募金により貧しい地域に住む約7万人の子どもたちへ温かい食事を配給することができました。また子どもの健康状態を調べるため身体検査を行い、栄養不良や健康を害している子どもには、薬などの支給を行いました。さらに、家の仕事を手伝うことのできる女の子たちが学校に通うきっかけになるように学校に来た女の子たちに食料油の支給をしました。

子どもたちの学力向上のため、先生の研修や教材配布を行い、各学校でPTA(子どもたちのために活動する親と先生の集まり)を立ち上げました。さらに、子どもたちが自給について学ぶために農業教育を行いました。各学校へ菜園の設置と農具の配布を行い、菜園クラブを通して子どもたちは農業を学ぶことができました。



学校で給食を受け取る子どもたち

